

ASSOCIAÇÃO CENTRAL NIPO-BRASILEIRA NOTÍCIAS E INFORMAÇÕES

ブラジル特報



特集 三年目のボルソナーロ政権

- ・三年目のボルソナーロ政権に思う
- ・三年目のボルソナーロ政権～経済情勢を深読みする

あの町この町
バウルー BAURU



一般社団法人 日本ブラジル中央協会

URL <http://nipo-brasil.org/> E-mail info@nipo-brasil.org

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-2 明宏ビル本館 5 階 TEL:03-3504-3866 FAX:03-3597-8008 発行人：大前孝雄／編集人：岸和田仁

新規会員募集中！

詳しくは P21 をご覧ください。



三井物産株式会社 www.mitsui.com



世界の未来を、ブラジルとつくる。

【Business innovation-1】

鉄道と港湾を一体化させ、物流を効率化。
鉄道網と港湾ターミナルの複合一貫サービスを提供するVLI社に出資参画。
たとえばサントス北西のティブラム港で、取扱貨物を次々と拡大。

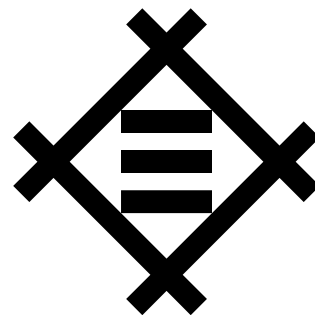
【Business innovation-2】

貨車リースで、全土に広がる陸上輸送モデルを確立。
MRCLA社を通じてリース事業を展開。貨車6,000両以上、機関車20両以上で国じゅうを縦横につなぎ、穀物・肥料・鉄鋼製品・燃料などを運搬。物流の安定化に貢献。

【Business innovation-3】

現場のニーズに細やかに応える農薬事業で、農業の発展を。
オウロフィーノ社に出資参画。大規模な農地が多いブラジルで、
気候条件に適した農薬製剤を開発。作物の順調な生育を農薬で支え、
増産や品質向上に貢献。

世界の未来を、世界とつくる。三井物産



MITSUI & CO.

目次

あの町この町 パウルー [松下和江]	3
ブラジル・ナウ 回復基調のブラジル経済と波乱含みの自動車業界 [『ブラジル特報』編集部]	5
【特集】三年目のボルソナール政権 三年目のボルソナール政権に思う [二宮正人]	6
【特集】三年目のボルソナール政権 三年目のボルソナール政権～経済情勢を深読みする [竹下幸治郎]	8
ブラジル北東部セアラ州、 村をリゾート開発から守った、小さな漁村の住民物語 [鈴木真由美]	10
ブラジル現地報告 ポルトガル語による日本史連続講座 4年目はオンライン [佐藤フランシスコ紀行]	12
連載・日系企業シリーズ 「中南米音楽」から「ラティーナ」へ [本田健治]	13
連載・ビジネス法務の肝 ブラジルの労働法制と日本の労働法制との違い [柏 健吾]	14
連載・税務の勘どころ ブラジルにおける ESG と税制の関係 [ルイス・ウォルフ/吉田幸司]	15
報告 サッカー人生引退後はブラジル・パラナ州で農場経営 [アルシンド・サルトーリ]	16
ウーマン・アイ 哲人カエターノ・ヴェローゾの魅力は音楽に止まらず [大林ミカ]	17
ジャーナリストの旅路 素晴らしいブラジル音楽 [小西大輔]	17
連載・文化評論 水声社版「ブラジル現代文学コレクション」第6巻 ベルナルド・カルヴァーリョ『九夜』(宮入亮訳)の魅力 [岸和田仁]	18
最近のブラジル政治経済事情	19
キャンパス・コラム ブラジル北部のパラー州の文化 [小川 涼]	19
新刊書紹介	20
連載・ブラジルあれこれ BRASIL para principiantes(4) -O País de Sessenta Milhões de Médicos- 協会からのお知らせ	20 21



写真＝永武ひかる
「表紙のひとこと」
「地平線がつつく大平原を行くと台形状の岩山が現れた。ブラジル中部トカンチンス州の州立公園ジャラパン。荒野に見紛うサバンナの地には、森に湧く泉や、ほとぼる清流に滝も。『黄金の草』と呼ばれ民芸に使われる草も自生する。」
永武ひかる：ブラジル撮影約30年、著作に写真絵本「世界のともだち3 ブラジル」(偕成社)等。
www.hikarunphoto.com

あの町、
この町

パウルー BAURU

サンパウロ州の中西部に位置するパウルー市は私の生まれ故郷だ。1896年に創建され、2020年の人口はIBGE(地理統計院)調べで約38万人、サンパウロ州で18番目に人口が多い都市だ。鉄道・幹線道路の分岐点となる交通網の要所で、サンパウロ市までは約300km、直行バスが頻繁に出ており片道3時間半ほど。バスターミナルはCOVID-19流行前では週平均約2万5千人の利用客で賑わっていた。

パウルーと言えば「学生の町」としても有名で、サンパウロ大学(USP)や州立パウリスタ大学(UNESP)のほか、多数の有名私立大学や専門学校のキャンパスがある。サンパウロ州だけではなくパラナ州やミナスジェライス州などブラジル全域から学生が集まり、近隣の町からは貸し切りバスで通学する学生も多い。その学生達もこぞって食べる全国的に有名な食べ物がある。その名もズバリ「パウルー」この町の名を冠したサンドイッチである。1934年に町のスナックバー「Lanchonete Ponto Chic」で当時法学部の大学生でもあり、ラジオ番組のDJでもあったカジミール・ピント・ネットが創作したサンドイッチと言われ、現在はハム、チーズ、トマトのホットサンドとして広く知られている。しかし、発祥店ではローストビーフ、モzzarellaチーズ、スライストマト、ピクルスをオレガノとサルサで調味しバゲットで挟んだサンドイッチがオリジナルレシピである。

ついでに紹介しておきたいパウルー豆知識は、宇宙飛行士で初のブラジル人マルコス・セザル・ポンテスの故郷であり、サッカーの王様ペレーが幼少期を過ごした町でもある。そして、パウルーは日本人移民とも深い関係がある。日本人の移住が始まった1908年(明治41年)当時はコーヒー農園の契約労働者としての出稼ぎ移住であり沢山の日本人が入植、パウルーはたちまち日本人移民の中心地となり日本領事館が置かれ、邦字新聞(『聖州新報』)が発行された。現在でも多くの日系人がパウルーに住んでおり、日本人・日系人世帯数は2016年時点で2千2百、約9千人と推定される。私が家族と住んでいた頃もしょっちゅう日系人の集まりがあり、子供会、青年会など活発に交流があり積極的に参加していた。また日本文化に基づく行事が1年を通して盛り沢山で、本当に楽しい青春時代を過ごした大切な故郷である。



▲BAURUサンマインチ
(サンパウロPonto Chicにて撮影・西原新子)



松下和江(例アバンセコーポレーション)



TRADE & DEVELOPMENT BANK
モンゴル貿易開発銀行東京駐在員事務所

“蒼天よりも高く”

突き抜けるような雲ひとつない青い空 — 蒼天(そうてん)

モンゴルは蒼天の国です。そのモンゴルでリーディングバンクとして活躍している銀行がTDBです。日本とモンゴルの間の貿易・投資に関わる貿易金融や外国為替を取り扱っています。私たち東京駐在員事務所はモンゴルの蒼天につながる日本の玄関口です。日本のお客様からのご相談をお待ち申し上げております。

モンゴル貿易開発銀行東京駐在員事務所

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1
丸の内永楽ビル2303
TEL: 03-4588-3945
FAX: 03-4588-3947

<http://tdbm.jp/>

詳しくはコチラ→



◎最寄り駅: 東京メトロ東西線大手町駅B1出口直上



BRASIL NOW

ブラジル・ナウ

回復基調のブラジル経済と 波乱含みの自動車業界

収穫も輸出も好調に推移している農畜産部門を除くと経済全般はコロナ禍による国内需要の冷え込みに苦しんできたが、そのブラジル経済は、ゆっくりとではあるが、回復基調に入ったと思われる。1月20日に発表された、ブラジル中銀フォーカスレポート並びにIMF統計調査によると、2020年度のブラジル国民一人当りのGDP伸び率は、2019年比マイナス5.1%だが、2021年度の伸び率はプラス3%と予想されている。この3%成長では2020年度の経済リセッションのマイナス分をカバーできないといわざるを得ないが、ラテンアメリカ諸国の数値(国民一人当りの、2021年度の2019年度比GDP伸び率予想)をチェックしてみると、アルゼンチンはマイナス9.3%、ベネズエラはマイナス31.9%、となっており、ラテンアメリカ全体の数値はマイナス6.5%であるから、この3%プラス成長のブラジルは、中南米地域においては“相対的に優等生”だ、ということになる。

こうした全体傾向を積極的にポジティブに捉えるか、はてまた、後ろ向きにネガティブに捉えるか、経済界の対応も業界によって様々である。こうした対応事例の一例として、最近大きな話題となった、自動車産業界をめぐる悲喜こもごものニュースをみてみたい。

まずは、ポジティブなニュースから。昨年12月10日、バス・トラック製造の大手、フォルクスワーゲン・トラック・バス社(工場所在地はリオ州レゼンデ市)は、2021年から25年にかけての5ヵ年で総額20億レアル(約380億円)の投資を行う、と同社のロベルト・コルテス社長は発表した。同社は4年前の2016年には15億レアルの投資を実施しているが、今回はそれを上回る積極投資であり、その投資対象案件は、①電気モーター向け新技術、②二酸化炭素排出量削減、③自動運転、と脱炭素技術投資を明確に示している。さらに同社は、550名の新規採用を公表し、ブラジルで開発された電気自動車を今年中に販売予定であることも明らかにした。このような追加投資を行う背景には、フォルクスワーゲン社のブラジル市場への揺るがぬ信頼があるからだろうが、さらには、コロナ禍でも好調なアグリビジネス関連の電動トラック需要は確実に伸長していくという市場分析をきちんと行ったからであろう。

このニュース発表から三週間後の1月4日、2020年度の新車販売台数が発表された。トラック・バスを含む新車販売台数は206万台で、これは前年比マイナス26.2%で

あった。一時期、マイナス30%以上の予想も出されていたことを思うと、第四四半期の販売回復が寄与した結果の数値であろう。今年2021年の販売予想は、250万台達成は難しそうだが、という見方が有力だが、それでも自動車市場は回復基調に入ったといえそうだ。

そんなニュースから一週間後の1月11日、今度は、衝撃的なニュースがブラジル中に拡散した。ブラジルの新聞は主要紙から地方紙まで「フォード：ブラジルの自動車生産から完全撤退」というトップ記事が一面を飾ったのであった。輸入車(主にアルゼンチン製)販売事業は継続し、開発センターも維持する由だが、事実上の事業撤退だ。「フォードが無くなる？」と経済界ばかりか一般庶民層にまで激震が走ったといっても過言ではなかった。

フォードがブラジルに進出したのは1919年であり、1950年代までは、ブラジルにおける最大の自動車産業であっただけに、自家用フォード車を乗り回すことがブラジルの中産階層にとってステータスシンボルであったのだ。ところが、最近では、長期低落傾向が続き、2019年には50年以上にわたって自動車もトラックも製造してきたサンベルナルド・ド・カンポの主力工場を閉鎖してしまった。昨年の自動車販売市場におけるフォードのシェアは7.14%と5位(一位GM、二位フォルクスワーゲン、三位フィアット、四位ヒュンダイ)に甘んじていたとはいえ、現在フォードはブラジルに三工場(①バイーア州カマサリ工場、②セアラ州オリゾンテ工場、③サンパウロ州タウバテ工場)を稼働しており、直接雇用者数は5千人だが、関連企業群(部品製造、運送、販売店等)の雇用人数は10万人といわれている。バイーアの地元有力紙A Tardeによれば、カマサリ工場関連の直接税収は年間5億レアルとのことなので、税収減やら失業者急増やら、フォードの事業撤退がもたらす経済的社会的なダメージは計り知れない。

フォード社の世界戦略の一環として、日本市場から撤退、オーストラリア現地生産終了(2016年)、さらには、欧州市場、ロシア市場からも撤退、という「選択と集中」プロセスが進められてきたのであれば、今回のブラジル撤退はフォード流資本の論理の“正しい選択”なのであろう。但し、ブラジル経済社会にとっては、歴史的な暴挙と言わざるを得ない。

『ブラジル特報』編集部

三年目の ボルソナール政権に思う



二宮 正人
(サンパウロ大学法学部博士教授)

下院議長・上院議長選挙をめぐる

ボルソナール大統領のさまざまな迷言については、たびたび駄文を書いてきたが、政権最後の一年（今年は3年目だが、来年になると皆選挙対策に迫られるので仕事は手につかなくなる）に至って、同氏はとうとう恥も外聞も忘れた行動に踏み切った、と言える。

まずは、選挙運動中の公約は、役職や補助金と引き換えに政治家を味方に引き入れるという、これまでのブラジルにおける旧態依然の政治、いわゆる TOMA LÁ, DÁ CÁ というような取引は絶対にしない、というものであった。しかし、コロナ禍への対応の遅れで支持率が下がるに至って、なりふり構っていらなくなった。今回の下院議長および連邦上院議長の選挙においては、自らが国会の多数を占める複数の中道政党、いわゆるセントロンと取引した結果の候補を表立って支持した。これは大統領の任命権限を駆使して中央官庁の局長級の役職、公社公団総裁のポスト、交付金等のバラマキを約束した結果に他ならない。また、実現はしなかったが、政権発足時に公約で削減した省庁を復活させる（すなわち、閣僚のポストの新設）、と発言したが、翌日取り下げた。ともあれ、国会内の下院、上院両議長の選挙の結果については、セントロン各派との協定が締結されたことが報道され、無記名投票ではあったが、前日にはボルソナール氏が推す2名の候補者が両院議長に選出されることが当然のこととなっていた。

これが何を意味するかというと、国家の行政権と立法権が一体となったということもあるが、現在の下院において全部で69件の大統領弾劾案が提出されており、それをまず憲法司法委員会にかけて合憲性を検討させるのも、本会議にかけて3分の2の議決を得て、大統領弾劾を実行するか否かはすべて下院議長の裁量にかかっているのである。これで、格別の理由がない限り、ボルソナール氏は任

期を全うする見通しがついたことになり、2022年の選挙に後顧の憂いなく望むことができるようになった。もっとも、選挙は直接投票であり、国会議員を介した間接投票ではないので、これら国会議員が握っている票がどの程度、意のままにボルソナール再選に向かって動くのかについて、今のところ見通しは出来ない。

コロナ対応の経緯

次は、コロナ禍への対応である。「単なる風邪に過ぎない」「ワクチンなど不要」「人間、何時かは死ぬ」「ワクチン接種を受けた者はワニになる」等の迷言を吐いた同一人物とは思えないようなワクチン支持の発言をするようになった。ワクチンについては、サンパウロ州は早くから毒蛇用血清、その他のワクチン製造で実績を有する州立ブタンタン研究所が中国の製薬会社と提携して、いわゆる CORONAVACS の製造に踏み切っていたが、ボルソナール氏はそのことをサンパウロ州知事ドリリア氏が自らの支持を得て知事に選出されたにもかかわらず、来年の大統領選挙に出馬するための売名行為に過ぎないとして、昨年の早い時期から徹底的に反対する言動をとり続けてきた。また、連邦政府としては、リオデジャネイロ市郊外の国立 FIOCRUZ 財団研究所において、オックスフォード大学と ASTRAZENECA 社が合同で開発したワクチンを製造するための準備を進めていたこともあって、そちらにこれ見よがしの多額の予算を付けたりしていた。しかし、先週は保健・衛生について権限を有する ANVISA（国家衛生監督庁）が国外における治験の報告書があれば、国内における患者の治験を免除する決定を下したことから、ロシアの SPUTNIK V をはじめとする複数のワクチンが使用される可能性が生じた。PFIZER のみは零下70度の保存体制が内陸部の小都市では望めないとして、候補に挙がっていない。

サンパウロ州は、昨年の早い時期から

連日サンパウロ州政府において、正午から記者会見を開き、州知事、市長、保健局長、ブタンタン研究所長、そのほか医療関係の識者を集めて、中間報告を行ってきた。約600万本のワクチンが確保できたとして2021年1月25日（サンパウロ市創立記念日）を期して、医療従事者、いくつかのランクに分けた高齢者、その他の順番を設けて接種を始めることを公表していた。ボルソナール氏は年末に至って、ようやく危機感を感じはじめ、FIOCRUZ 財団での製造が間に合わないため、急遽インドで製造されている ASTRAZENECA ワクチン200万本を緊急輸入して、サンパウロ州に先立つ接種を始めようとした。民間機をチャーターしてインドへワクチンを引き取りに行く計画を大々的に発表した、チャーター機はレシーフェで出発待機をしていたところ、飛び立つ直前になってインドが200万本分のワクチンをブラジルに供給することを拒否したというニュースが飛び込んできた。新聞報道によると、その理由は一昨年インドがWTOにおいて先進国が排他的に有する薬品関係の特許料の支払いを、かつてブラジルが行った事例を踏襲して一時停止する措置を提案したところ、ブラジルが今度は先進国側に与してインドの提案を棄ったことに対する報復措置であるとのことであった。大統領はブラジル初のワクチン接種のセレモニーをサンパウロ州に先駆けて行い、大統領選挙に利用すべく準備していたところ、不発に終わってしまった。その後、インドとの外交交渉の結果、200万本のワクチンは無事サンパウロ経由でリオデジャネイロ国際空港に到着し、消防車の放水のアーチで迎えられ、厳重な警護の下、FIOCRUZ に運び込まれた。

現状において確かなのは、ブラジル全土に存在するのはサンパウロ州ブタンタン研究所が製造した600万本のワクチンと新たに到着したインド製の ASTRAZENECA ワクチン200万本のみということになり、保健省は以前から

存在する国家ワクチン接種計画に基づき、ブタンタン研究所に手持ちのワクチンをすべて連邦政府の管理下に置くことを要請した。サンパウロ州は、先ず州民に優先的に接種を行うためのワクチン本数を確保したうえで、連邦政府に引き渡す、という議論を展開したが、最終的には人口分布に応じた国家ワクチン接種計画にしたがって、一定量を確保したうえで、残りをグアルーリョス国際空港近辺にある連邦政府の倉庫に移管した。当日から複数の州知事が、自らの州への割り当てワクチンを引き取りに来て、保健大臣出席の下で引き渡しを行い、それぞれの州に持ち帰り、遅まきながら接種が始まった。また、最近ではブタンタン研究所に中国から5,400リッターのワクチン用原液も到着し、これで450万人分のワクチンが製造できる見通しが立ったということであるが、2億1千万の国民に2度にわたる接種が実現するのは今年いっばいか来年に入り込む可能性もあるとのことである。

サンパウロ州は、1月25日を待たずに、アフリカ系看護師の接種を行い、その後医療従事者への接種が行われ、2月5日以降は90歳以上の高齢者の接種が始まり、順次年齢を下げていくとのことである。他州においても接種が始まっており、医療従事者、高齢者とともに先住民やかつての逃亡奴隷集団の子孫等にも行われているが、内陸部の市長やその眷属が順番を無視して接種を行ったというニュースも早速流れてきている。2月8日現在、ブラジル人口の約1.7%が接種済みということであるが、国民に接種がいきわたるのは前途遼遠と言わざるを得ない。しかも、ワクチンにもよるが、1か月から3か月を経て、2度の接種を行う必要もあり、連邦政府、州政府、自治体ともにマスクの使用、手洗い励行、密の回避を呼び掛けているが、緊急事態宣言下でレストランは一日6時間営業（日中2時間、夜4時間）となっており、そのほか、週末は薬局、スーパー、ガソリンスタンド等の絶対的生活必需品を販売する店舗のみの営業が許可されている。一時はレストラン営業時間を午後8時までとしたが、それでは営業が成り立たないとの苦情が相次ぎ、午後10時までの制限に戻された経緯がある。しかし、問題は週末になると、国内各地で無許可のパーティが行われて

いることである。州都であると内陸部の都市であるに拘わらず、誕生パーティ等の名目で、ディスコやナイトクラブを借り切り、SNSで情報を発信して、500人乃至1000人規模の密集パーティが行われてきた。騒音等の発生から近隣住民の告発に基づき、警察が捜査を行って参加者を解散させ、責任者に対して過料徴収の手続きをとっているが、「浜の真砂」の例えのごとく、後を絶たないのは当地の国民性によるものかと首をかしげざるを得ない。

クロロキナ偏重で予算浪費

事ここに至った責任が大統領にあることは明らかである。冒頭にも触れたようにコロナ禍を軽視したこともさることながら、何か科学的には効力が立証されていないクロロキナとハイドロクロロキナがCOVID19に対して予防効果があるとして、国民にその服用を勧めたことである。現職に先立つ二人の保健大臣は、医師としての立場からも職を賭して反対した結果、更迭・辞職を余儀なくされた。これらの薬品の効用はマラリア、関節炎、その他いくつかの疾患には有効であるが、COVID19の予防・治療には効果がないということは、国の内外の研究者からも再三指摘されてきた。そして、この度その配布に費やした予算について会計検査院が調査に乗り出したことが報道された。ボルソナール氏が尊敬してやまなかった米国前トランプ大統領から200万錠の寄贈を受けたほか、陸軍化学薬品研究所でも320万錠が生産されたが、そのための原料調達には緊急を要するという理由で、随意契約で購入されたほか、輸入税や商品流通税の免除等の措置が採られ、無効な薬品のために保健、経済、外務、科学技術、防衛の各省庁の公務員が焦眉の急であるCOVID19対策に従事せず、また都市部、農村部のみならず、北伯の先住民部落等の辺鄙な場所への配布に陸軍部隊及び空軍機が使用されて、貴重な予算が浪費されたというものである。

マナウスの現状

さて、日本でも「医療崩壊」が叫ばれているが、アマゾナス州マナウス市の現状の一部を紹介したい。年初に州政府及

び市長は年末年始において市民の密集事態が数多く発生したことから感染拡大が予想され、緊急事態を宣言しようとしたところ、営業妨害を理由に商店会、飲食店業界等から強硬な反対意見が寄せられ、当局は宣言を発しないまま撤回した。ところが、その直後から感染者、死者数が急増し、内陸部からも患者が続々とマナウス市に運び込まれた。市内の病院ではベッドも集中治療室も人口呼吸機、心肺装置も不足し、これまでに数百名が近隣州のみならず、ブラジル最南端のリオグランデ・ド・スール州サンタマリア市にまで患者を空軍機で搬送する事態となった。もっとも深刻な事態は、病院で使用する酸素が不足したことであった。大統領は酸素を空輸するのは連邦政府の責任ではない、と一応は発言したものの、事態収拾のために保健大臣をマナウスに派遣したが、酸素不足が発覚する一週間前であったにもかかわらず、不作為が問題とされている。マナウス工業団地には酸素製造会社があり、日産3万立米が生産されているが、市内の需要は8万立米に上り、急遽空軍機で他州から酸素ボンベを運んだり、隣国ベネズエラから陸路搬送せざるを得ない状態に追い込まれた。最高裁判所判事は保健大臣に対して職務怠慢の疑いがあるとして調査を始めることになり、大統領に対しても昨年を通じてコロナ禍に対する対応が不十分であることから、野党が連邦検察庁に対して背任罪の適用請求が行ったが、最高裁判所は仮処分は単独裁判官で出せても、最終的には11名の大法廷を開かなければ、結論を出すことはなく、連邦検事総長もボルソナール氏の任命した人物であることから、結果に注目したい。

ボルソナール大統領が公式、非公式の場を問わず、COVID19に感染済みを理由にマスクを着用しないことは報道写真や映像でも周知のとおりであるが、1月8日に訪伯した茂木外務大臣一行をブラナルト宮殿に迎えた際も、大統領はマスクを着用せず、開口一番、ここ大統領府にはウイルスは存在しない、と発言した。日本側一行は全員マスクを着用していたので、皆の表情を伺うことは出来なかったが、私は大統領の横でマスクを二重に着用して通訳を務めていたことから、その後2週間にわたって感染の恐怖におの



●特集●三年目のボルソナード政権

三年目のボルソナード政権 経済情勢を深読みする



竹下幸治郎
(拓殖大学国際学部准教授)

1. “まだら模様”の様相呈する コロナ禍のブラジル経済

2020年、世界の多くの国が新型コロナ蔓延の影響を受けた。ブラジルも例外ではない。世界でも三指に入る（新型コロナによる）感染者数、死者を記録したこと、ファベールなど構造的な問題で密になり易いことなど、社会のネガティブな部分も含め、日本で頻繁に報道された。加えて、新型コロナを軽視するボルソナード大統領の言動も広く知られるところとなり、新型コロナによりネガティブなイメージが広がってしまった。

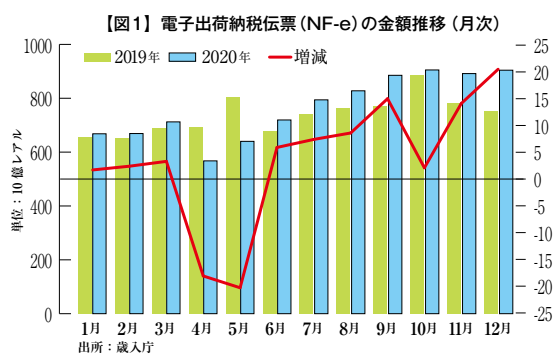
ビジネス目線でみても、上記のような大統領の姿勢に端を発する閣僚人事を巡る混乱、主要州知事との軋轢、さらには親族のスキャンダルなどの政治問題が発生し、為替にも影響したことで対応を迫られた。新型コロナによる経済活動の規制は、ビジネスに直接的な影響を与えただけでなく、緊急支援策実施に伴う財政赤字拡大および新たな国債発行に伴う債務の増加も通貨下落の圧力を高めた。経済の先行きへの懸念をさらに深めることとなった。

しかし、実際のブラジル経済は、悲観一色だったわけではなかった。どちらかといえば、“まだら模様”という表現の方が的確であった。つまり、打撃を受けた産業もあれば、コロナ禍がフォローの風になった産業もあった。また、同じ産業を時系列でみると、必ずしもその状況は一樣ではなかった。2020年を振り返ると、新型コロナ蔓延の規模の割に、経済面では“比較的”軽症だったと言えなくもない。

実際、IMFの2021年1月時点のGDP成長率予測をみると、ラテンアメリカ・カリブ全体において、同成

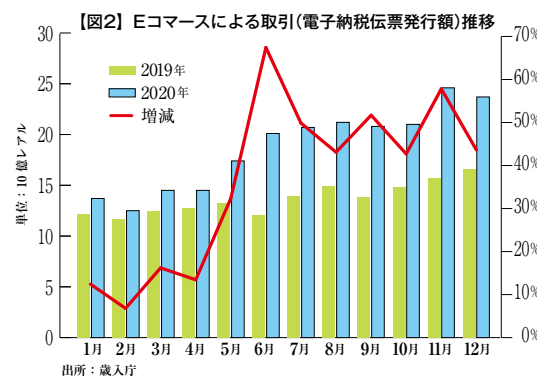
長率は7.4%減が予想されている中、ブラジルは同4.5%減でとどまるとされていた。その後ブラジル中銀が2月12日にGDPの先行指標と位置付けられている経済活動指数(IBC-Br)について2020年の伸び率を発表したが、4.05%減とマイナス幅が小さくなっており、これを受けて2020年のGDP成長率も、4%減前後で着地する公算が出てきた。2020年上半期のGDP成長率（前年同期比）が5.9%減だったことから考えると後半にかなり回復したことになる。

ブラジルの大企業や中規模企業のビジネス動向をトレースできるNF-e（電子納税伝票）の動きを月別にみてもその状況が分かる。図1のとおり、4月、5月には前年同月比で大幅なマイナスとなったものの、6月以降は前年を上回る状況が続き、最終的に年累積では前年比で6.9%増（9兆4,800万リアル）となった。サブセクター別でみると自動車・オートバイとそのパーツなどは2月から6月まで前年実績を下回り、特に4月は52.9%減と大幅に落ち込んだ。在宅勤務や旅行を控える動きの広がり燃料・潤滑油も3月以降、12月まで全て前年比マイナスという状況に落ち込んだ。他方で、薬品・医療機器・化粧品のカテゴリーは全ての月で前年を上回った。また、建設資材は4月、5月に落ち込んだものの、6月以降年末に至るまで急激な伸びを示した。実質金利が非常に低いレベル



にあることで不動産の一部セグメントが好況下にあることもそうした動きの背景にあった。

また特筆すべきは電子商取引である(図2)。コロナ禍による影響が顕在化する前の第1四半期と比して第4四半期は70.2%増となった(年内累積額も前年比で41.2%増)。



2. 特異な2020年の マクロ環境

2021年の経済情勢を見る前にまず、2020年に形成された特異なマクロ状況を整理し、それら要素がどう変化していくかを考える必要がある。なぜなら、2020年のマクロ環境は、過去に例をみない状況となっているからである。

従来から、ブラジル経済を左右する重要な要素の一つに資源価格がある。単位重量当たりの資源価格の上昇は、輸出額の増加を通じて交易条件（輸出価格／輸入価格）を改善し、それによりもたらされた交易利得の増加が内需の押し上げ要因になるからである。従来みられてきた好況期入りのパターンとして、まず資源価格の上昇を背景とする輸出額の増加を通じ、まずは貿易収支黒字と経常収支赤字幅の縮小がみられる。これを受けて通貨リアルはドルに対して強含み、輸入物

価圧力は低下する。輸入物価の圧力低下は、そのままインフレを下押しし、指標金利ひいては民間の貸出金利の低下につながる。この金利低下は、特に耐久消費財などローンによる消費を活性化する。耐久消費財も含めた消費拡大は、生産の拡大、そして設備投資増加につながる。雇用は、こうしたサイクルの最後の局面あたりから増加し、就労者数の増大は、次の景気拡大のサイクルを生み出す。

こうした過去の成長パターンに照らして2020年をみるとかなり違和感を覚える。海外情勢をみると、中国経済がいち早くコロナ禍を脱し、経済が正常化したことで、ブラジルからの鉄鉱石、大豆、原油といった資源輸出は好調に推移した。こうした中国の資源需要に加え、各国の財政出動、金融緩和策により、世界中で運用先を求めるマネーがコモディティに流れ込み、国際価格を押し上げてブラジルの輸出が恩恵を受ける構図は、2010年代前半の好況期のそれと同じである。

他方、当時との相違点として、リアル安継続がある。新型コロナ蔓延が需要に与える直接的な影響のみならず、“戦時経済”下のもと記録的な歳出増加が財政赤字の拡大につながり、ファイナンス手段としての国債発行の増加に伴う債務増加したことで金融市場がブラジルの財政改善に疑念を抱いたことも背景にある。従来の成長パターンであれば通貨高となるはずが、実際は通貨安となったことで、輸入物価上昇の影響を受けやすい卸売り物価指数は上昇する一方、景気が本格的に回復しているわけではないため、輸入コスト上昇分が流通の途中で吸収され、消費者や顧客への売値に転嫁されず、その結果、消費者物価の上昇が「いまのところ」抑制されている状況になっている。指標金利は史上最低水準で推移しているが、雇用が増加しているわけでもな

【表2】各種指標の変化に対する公共部門の純債務(DLSP)と政府総債務(DBGG)の弾性値

	DLSP		DBGG	
	変動額 (単位:10億リアル)	対GDP比 (パーセントポイント)	変動額 (単位:10億リアル)	対GDP比 (パーセントポイント)
対ドルレートが1%切り下がった場合	-11.7	-0.16	7.1	0.1
SELICが1%引き下げられた場合	-33.0	-0.45	-31.7	-0.43
物価指数が1%上昇した場合	11.3	11.3	11.3	0.15

出所：中央銀行

く、需要全体に火がついたわけではない。つまり交易条件の改善による利得ではなく、給付金が需要を下支えしている構図もこれまで見られなかったものだ。国内の需要が伸びない中、食糧生産サイドは収益が得られる輸出にシフトし、国内向け供給滞りも生じている。供給サイドと需要サイドにギャップが生じ、これも卸売り物価の上昇圧力の一つとなっていることも見逃せない。

3. 今後のカギは？

今までにないマクロ環境の中、ブラジルでは不透明な経済状況が続いている。しかし、いずれにせよこの状況の背景には新型コロナの蔓延があるため、これがいつ収まるかが21年を見通す上で最も重要となる。

世界のワクチン接種状況を取りまとめているOur World in Dataによると、21年2月11日時点のワクチン接種率は2.1%(当該時点で世界第8位)となっている。すでに政府が交渉済みのアストラゼネカ、シノバックのワクチンに加え、ファイザー、モデルナ、ベルギーのジャンセン製、それに一旦は書類不備等で認めないとしたロシア製のスプートニクVについても導入できるようANVISA(国家衛生庁)がルールを変更するなどし、接種を急いでいる。英国の調査会社の予測を掲載したExame誌(2月8日付)によると、ブラジルの人口の75%の接種が終わる予定は今のところ10月22日となっている。

ワクチン接種進捗の次に、消費者物価の動向とその背景にある為替、財政収支・

債務の関係に注目したい。卸売り段階で吸収されていたインフレ圧力が消費者物価に波及するリスクについては、短期的なものでいずれ収まるという見方が20年末まではよくみられた。しかし、サウジなどの生産国減産や各国のワクチン接種進捗による需要増加を見越した原油価格高騰の動きが21年に入って見られている。国際原油価格は、ブラジル国内燃料価格の引き上げに直結し、幅広い分野で物価上昇圧力を高めるので注視していかなければならない。

他方、ワクチン接種計画遅延あるいは感染再拡大もシナリオとしては十分ありうる。行動規制などで需要減退が再び起きた場合のインフレへの影響を中央銀行は表1のとおり算出している。

輸入物価上昇の原因となるリアル安に関しては、様々な要素が絡むが、根本的に政府の財政運営および債務のコントロール状況とそれに対する市場の評価に左右される。ボルソナード大統領は、原則としてゲデス経済相が主張する財政均衡を尊重しており、野放図はバラマキを行う兆候は今のところみられない。また、債務コントロールについては、公的機関の債務が、その構成上、為替、金利(Selic)それに物価変動で増減する。中銀では表2のとおり各指標の変動が公的債務の増減に与えるインパクトを算出している。

このように、ワクチン接種の進捗、財政赤字および債務のコントロールが21年の為替、インフレひいては指標金利に影響を与え、経済全体に影響することになるだろう。構造改革の進捗にも目配りしておきたい。ボルソナード政権3年目となる今年は、年後半あたりから来年の大統領選が意識されるようになるだろう。税制改革や行政改革などタフな調整が必要な改革は、早めにやっておく必要がある。2月の上下両院議長選の結果をふまえ、それら改革の進捗具合も気にしておきたい。

【表1】パンデミックが長引くことによる消費者物価指数(IPCA)へのインパクト

年	四半期	ベースシナリオ	代替シナリオ (パンデミックが長引き、 需要が減退した場合)	インパクト (パーセントポイント)
2020	第4四半期	4.3	4.3	0.0
2021	第1四半期	4.4	4.4	0.0
	第2四半期	5.7	5.3	-0.4
	第3四半期	5.0	4.3	-0.7
	第4四半期	3.4	2.4	-1.0

出所：中央銀行

ブラジル北東部セアラ州、村をリゾート開発から守った、小さな漁村の住民物語



鈴木真由美
(カノア保育園園長)

セアラ州エステーヴァン村

私が代表を務める、NPO法人光の子どもたちの会の活動地である、ブラジル国セアラ州アラカチ市は、「心地よい風の土地 (Terra dos Bons Ventos)」と呼ばれており、セアラ州の州都フォルタレーザから約150kmのところ positioning している。アラカチ市の歴史は深く、1747年4月11日に建立されたといわれており、2000年には、国立歴史芸術遺産研究所 (Instituto do Patrimônio Histórico e Artístico Nacional (IPHAN)) に登録された。

2019年現在、アラカチ市の人口は74,547人であり、主な産業は観光というだけあり、日々多くの人々が訪れる場所となっている。また、2000年に私たちが作った「カノア保育園」のあるエステーヴァン村は、アラカチ市の観光産業の中心である、カノア・ケブラーダ地区にある。

「カノア保育園」のあるカノア・ケブラーダ地区は2つの漁村に分かれている。1つは「地球の歩き方」にも掲載されているほどの

観光地、「カノア・ケブラーダ」であり、もう1つは、今でも昔ながらの雰囲気を残す、小さな漁村、エステーヴァン村である。この2つの村はカトリック教会を境に分かれており、航空写真で見るとこの2つの村の違いは一目瞭然。エステーヴァン村は、まばらに家が建っており、緑豊かな村であり、一方観光地カノアは、砂丘のふもとまで家が迫っているほどたくさんの建物で埋め尽くされているのが見て取れる。なぜ同じカノア・

ケブラーダ地区の中で、この2つの村に大きな違いができてしまったのだろうか？ それを知るためには、1980年代の出来事にさかのぼらなければならない。

数十年前のエステーヴァン村

カノア・ケブラーダ地区は、ブラジル人からも「地の果て」と言われるほど、陸の孤島のような場所だった。因みに、私が2000年当時セアラ州に行くことになったとサンパウロに住むブラジル人の友人に告げると、「あんな地の果てに行きどうするの？」とかなり心配された。

1970年代当時、砂丘と海に囲まれているカノア・ケブラーダ地区に辿り着くためには、森を抜けて砂丘を超えてくるか、海岸沿いを歩いてくるしか方法はなかった。そのため、1970年代までは、村に住んでいる人以外との関りはあまり多くなかったようだ。義母 (2020年現在64歳) によると、病気になった時には、村の祈祷師に頼るしかなかったという。そして、あまりにひどいけがや病気の場合には、ハンモックを担架のようにし、森を抜けてアラカチ市の中心街の病院まで運んだそうだ。

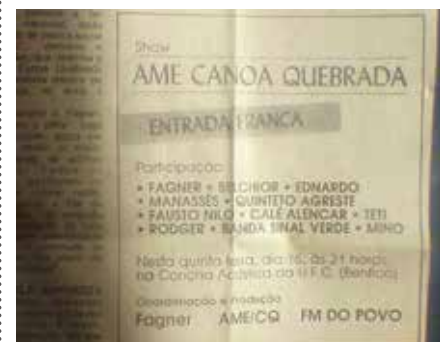
1970年代にはいると、バックパッカーの人達が、森を抜け、砂丘を超えたり、海岸沿いを歩いてきたりとカノア・ケブラーダ地区の村を訪れるようになっていった。バックパッカーは、ブラジル国内の大都市であるブラジリアやサンパウロ、リオデジャネイロの若者や、ヨーロッパから来た若者たちであった。バックパッカーである彼らは真っ白な砂丘の中にある村を見て、

「ここは天国のようだ」と皆が一様に興味を抱いたのだ。こうしてその噂は少しずつ広がり、この村を訪れる人は増えていった。そして1980

年代に入ると、漁師から土地を買い、お店やレストラン、ホテルを建てる人が出てきた。この当時、カノア・ケブラーダ地区の村人たちは物々交換で生活しており、お金というものをを使う機会はほとんどなかったという。寺小屋のような場所はあったものの、文字の読み書きや簡単な計算さえもできなかった村の人たちにとって、目の前に置かれた札束がどのような意味のあるものなのか、見当もつかなかったに違いない。それでも、お金というものを手にし、自分の住んでいた家を手放す人が少しずつ出てきたのだ。こうして商店や八百屋しかなかったカノア・ケブラーダ地区に、レストランやホテルが建ち始め、観光地として少しずつ発展しはじめていったのである。

リゾート開発計画と反対運動

1985年。ある不動産会社の人が、エステーヴァン村を訪れ、リゾート開発計画があることを村人たちに告げた。その開発計画の対象となっている土地は、カノア・ケブラーダ地区の中でも、エステーヴァン村と呼ばれている部分だった。少しずつ観光地化されてきていたカノアの村に対し、エステーヴァン村はまだ土地の売買も行われておらず、住民のほとんどは、昔ながらの生活を続けていた。手付かずの自然の残るエステーヴァン村。そこに目を付けた不動産会社が、リゾート開発を計画したのである。エステー



▲ファギニーのコンサート宣伝広告

ヴァン村の人達は一人残らず、この村を出ていかななくてはならなかったのだ。

エステーヴァン村はもともと3家族が子孫を増やしながらかつていた場所であり、原住民や黒人奴隷の子孫が住んでいた場所であった。流れ着いた先には家を建て、集落をつくっていた彼らにとって、土地の権利証など持っているはずもなかった。この時、エステーヴァン村に住み続けることは不可能のことのように感じたと、後に義母は語ってくれた。しかし、リゾート開発に異を唱えた村人たちが立ち上がり、反対運動を始めたのである。この小さな貧しい漁村で始まった運動だが、人から人へと伝わっていき、次第に州政府を巻き込むほどの大きな問題となっていったのである。



▲コンザーガ元セアラ州知事が特別政府保護地域にするために署名

エステーヴァン村の住民たちは、1986年に住民協会を設立し、自分たちの村を子や孫の世代まで受け継いでいくために、この土地に住み続ける権利をと、訴え続けた。この運動にセアラ州出身の歌手ファギニー (Raimundo Fagner) が賛同し、コンサートを開催。こうして全国的に活動が認知されていき、ついにはセアラ州政府をも動かすこととなったのだ。セアラ州政府は、エステーヴァン村の住民たちの意思を尊重し、「特別政府保護地域」として、エステーヴァン村の土地の売買を禁止した。その後、この村は「環境保護地域 (APA-CQ)」となり、この村の土地の管理はすべて、住民協会に委ねられることになったのである。こうして保護地域となったエステーヴァン村は、観光地化の波を受けず、昔ながらの生活を続けていくことができるようになった。しかし、歩いて15分ほどの距離にある、観光地カノア。観光地化の波を全く受けずにいる…ということはできなかったのである。

1999年、初訪問

1999年4月。私は初めて、エステーヴァン村を訪れた。サンパウロのファヴェーラ (スラム街) の中にあるモンチ・アズールコミュニティ協会 (Monte Azul Community Association) で1年間ボランティアとして滞在することになっていた私に、1996年から2001年まで実施されていた、JICAによる出産のヒューマニゼーション (自然分娩推進事業) に参加していた方から、

「ブラジルに長く滞在するのなら、まずは日本人や日本文化に触れることのない場所で過ごしてみたい方がいいのではないか」と誘われ、日本から真っすぐサンパウロを経由して、セアラ州にやってきたのである。初めて訪れたエステーヴァン村は、舗装されていない砂地の村で、未だに薪を朝と夕方に拾いに行くような、そんな生活をしてきた。この村にはサンパウロの保育園で保育士として働いていたエヴァさんという方が住んでおり、私は彼女の家にホームステイさせてもらいながら1ヶ月過ごすことになったのだ。

エヴァさんの家には幼い子どもを連れてきた母親がやってきては、コーヒーを飲んで話をし帰っていく。その当時はまだポルトガル語が理解できなかったの、彼女たちが一体どんな話をしているのか、理解することはできなかった。その後当時の話をエヴァさんに聞いてみると、エステーヴァン村の多くの母親が観光地として急激な発展を遂げるカノアにおいて、自分の子どもをどのように育てたらいいのか不安に感じていることが分かった。

そんな中、ある日海岸を散歩していると、近所に住む10代の少女に出会った。彼女はウォークマンを片手に音楽を聴いており、「それどうしたの？」と聞く私にこう答えたのだ。それは、「ヨロツパから来た人がこれを持ってきたの。こんな小さな機械で音楽が聴けるなんてすごくない？ 欲しいって言ったなら、一晩一緒にいてくれたらあげるよって言われたの。こんなに簡単にもらえるなんてすごくない？」

またスーパーに買い物に行ったときには、まだ中学生にもならないエステーヴァン村に住む子どもが酔っぱらっているのを見かけた。

「まゆみだあ〜！」と声をかけてきた少年に「家に帰った方がいいよ」というと、「一緒にやろうよ」と一言。手に持っていたのはコカインだった。

観光地化がもたらした豊かさは、真新しい世界に目を輝かせた10代の少女少女に影を落とし始めていた。あまりにも簡単に手に入ってしまうその状況は私にとって衝撃であり、それと同時に、エステーヴァン村の人達にとって今必要なもの。今でなければ抜け出せない世界があるのではないかと強く感じさせた。

2000年、カノア保育園開園

「目の前にいる小さな子どもだけでいい。これからの社会で生きていけるようにしてほしい」

そう願う母親たちの想いから、2000年にカノア保育園は生まれた。

そして今、子ども達は夢を思い描けるようになり、自分たちで道を選択していくことができるようになった。

コロナ禍において、ブラジルの社会格差は今まで以上に広がり、エステーヴァン村でも観光業で働く人のほぼ全員が失業してしまった。それでも、彼らは明るい。

「ケセラセラ (Que sera sera)」の精神だ。

でもこれは、「今日よければすべてよし。明日は明日の風が吹く」

という、将来を見据えていないからこそ。子ども達の未来を守るためにも、今できることをしていこう。



ポルトガル語による日本史連続講座 4年目はオンライン



佐藤フランシスコ紀行
(ブラジル漫画家協会会長・出版社経営)

日本の歴史に興味があるブラジル人とは

ブラジルで大学教員でもない私が社会人向けの日本史講座を始めてから 2020 年で 4 年目。4 回日本の歴史を縄文から現代まで繰り返した。新型コロナウイルスが発生してからは有料オンライン教室となり、20 回に分けて毎回平均 91 人の受講者がいた。

成功だったが、なぜブラジル人が他国の歴史に興味有るのか、疑問に成る。おそらくブラジルの歴史を無料で教えても生徒は集まらないだろう、米国の歴史も同じだと思う。ブラジル人は歴史に関心がない、と言える。

受講者のアンケート調査を行ったことも有るが答えは出てこなかった。受講者リストを見ると約 4 割は 60 歳以上の日系人が日系人と結婚している方。この方たちは自分のアイデンティティを探しているのだろう。ブラジルの学校では歴史は全てヨーロッパが中心でアジアの歴史は何も教えていないからだろう。

残りの 6 割は非日系人を含む若い人だ。この受講者たちの学歴は皆大卒で、大学院生もいれば大学教授もいる、つまり勉強が好きな方たちだ。でもどうして日本に興味有るのだろうか。

欧米ではない国に興味有り

これは私の考えだが、ブラジルの大学の社会科学部では米国を強く軽蔑している。先生方が主にヨーロッパ派であって大概ヨーロッパか中南米で留学・研修などを行っているが、普通米国には行かない。何時も出てくる決まり言葉が「アメリカ帝国主義」だ。私がサンパウロ大学でジャーナリズム部の学生だった時、同級生から「米国の作者を参考にしたらこの大学は卒業できないよ」と言われたことも

あった。大学内で一番気に入られているのがドイツ、フランスとイタリア。これは多分サンパウロ大学に第二次世界大戦から逃げてきたユダヤ系の学者たちがブラジルの教授に成り、まだ未熟な社会科学を発展させたからだと思う。それと同時に、あの頃ブラジルは軍事政権でデモクラシーではなかった。米国がブラジルの共産主義化を恐れて軍人に指導と投資していたと言われていた。だから米国は嫌われていた。因みに私の通学した大学の図書館ではヨーロッパ・ユダヤ系の先生が書いた本が多く、米国の物は本当に少ない。

先進国の中、米国は良くない、次が中国と日本。アジアの国はブラジルで余り知られていない、だから興味がある、と考えるのだろう。中国と日本、どちらでも良かったかも知れないが、日本は漫画の影響も少し抱えているだろうが、ブラジルで日本のイメージはマイナスが無いと言っても良いほどだ。それは日本から移住したおじいちゃん

達が真面目の前に馬鹿が付くほど一生懸命に努力したから。そして日本の JICA とか国際交流基金が以前から援助して下さっているからだと思う。中国移住者は日本人より先に来ているが、中国とブラジルの関係歴史はまだ浅いのだ。

ブラジルで何を教えるのか

「留学生のための日本史」と言う山川出版社の簡単な本に基づいて大きな流れのリストを作ってそれから調べて内容を増やして行った。この本は 1990 年に出版されたもので青森の三内丸山遺跡も載っていないので最近出版された日本の歴史の本も参考として使った。

全然アジアの歴史を知らない人に何から教えて行くのかを考え、最初は世界地図から始まる。これはブラジルで使われているヨーロッパとアフリカが中心の地図では無く、太平洋が真ん中の地図だ。そしてアジアの方が西洋とアフリカより人口が多い、そして経済力も凄いと言う説明だ。つまり今ヨーロッパは世界の中心ではないと言う事が大事。

ブラジルの歴史はポルトガル人が来た 1500 年からで、その前から原住民が住んでいたが、ポルトガル人はキリスト教が彼らを救って文明化したと説明して、それが当たり前に成った。日本は 1 万年以上前から歴史を重ねている、と比較も出来ないだけ違うものだ。

受講者からの質問～多すぎるほど！

ブラジル人は本当に沢山質問する。最終回の講座では、多くの質問に回答したため、1 時間 30 分の講座時間では足りず、さらに 50 分以上費やすことになった。それでも質問が多くて時間内に答えられなかったで、A4 型の紙に回答できなかった質問への答えを書き込んで送付したら 6 ページになってしまった。ブラジル人は何を質問するかと良く聞かれるが、「慰安婦問題」は毎年聞かれる。これは世界のメディアに流れているから思いつくので、決して日本人を嫌っている訳では無い。だから私は日本の良いイメージを見せるのが外国で日本の歴史を教える義務だと思う。受講者が日本を気に入ってくれる事によって私たちの日本をテーマにした別の講座にも参加してくれるだろう。そして将来、日本との交流に係る人材が育つのだろう。

興味有る間に正しい歴史を教えることで将来ブラジルと日本の関係は現在よりも良くなるはずだと勝手に思っ

オンライン講座の受講者とボランティアスタッフ



「中南米音楽」から「ラティーナ」へ



本田健治
(旧ラティーナ代表取締役)

1952 年月刊「中南米音楽」創刊

月刊「中南米音楽」は、NHK ラジオの解説者や、熱血漢の学生が集まって、1952 年に発刊した音楽雑誌だ。当初は主にアルゼンチン・タンゴの愛好家が作った雑誌だったのだが、3 号で早くも廃刊の危機を迎えた。そこに、海軍の特攻隊に所属して終戦を迎え、結核療養所に入院中だった中西義郎氏が、病院で看護婦たちにガリバン刷りの協力を得ながら続行を決意したという。創刊の頃から少しではあるがラテン、ブラジルの音楽記事も扱う希少な雑誌だった。

1960 年代末には、セルジオ・メンデスとブラジル 66、バーデン・パウエル等が日本にも紹介されて、ブラジル音楽が人気になったが、あくまでもアメリカ経由、南米のブラジルの音楽ということにはあまり関心は持たれなかった。しかし、60 年代の後半になって京都大学中南米音楽研究会出身の中村とうよう氏が「ミュージック・マガジン」や本誌で、ブラジル音楽のことをかなり取り上げるようになってきた。筆者は当時、日本フォノグラムという会社でディレクター職についていたが、「フィリップス・ブラジル・コレクション」という企画を立ち上げた。当時のブラジルではフィリップス・レーベルを扱うリオのポリグラム社が最大。つまり、超人気アーティストは全部ここにいた。70 年代初頭、この企画が初めてブラジルという国の音楽として認知され、マスコミにも正しく紹介された。

1983 年月刊「ラティーナ」へ改名

74 年中南米音楽に入社。79 年からは、音楽鑑賞団体と組んで、ブラジル・シリーズを開始。ガル・コスタ、エリゼッ、アルシオーネ、クララ・ヌネス ... と毎年日本全国公演を行う。他にも FM 東京、そこから独立した J-Wave と一緒に、ナラ・レオンやジョイス、パウリーニョなどブラジル音楽を猛アピールしたのが 80 年代、90 年代だった。雑誌も、固苦しい「中南米音楽」から「ラティーナ」に改名。83 年のことだった。この頃から中心はブラジル音楽に傾いていた。そして、原盤のあるレコード会社にも日本発売を奨め、マスコミにもカーニバルだけではないブラジルの素晴らしい数々の音楽イベントを紹介、取材協力してきた。

ラティーナ社の事業内容

弊社の経営は、この雑誌の発刊、輸入盤・楽器の輸入販売、中南米アーティストの招聘・制作業務の 3 部門が主体だった。当初は、愛好会の会報誌程度だった雑誌も、商業雑誌としての

体を為してきたのは 70 年代の後半頃だったのだろうか。当時はたくさんのレコード会社、オーディオ会社、航空会社と、広告スポンサーの幅も広がって、どれもがリンクしてくるようになった。

私は、中南米音楽社の番頭的な立場だったが、92 年、前社長の中西氏がアルゼンチンからの機中で亡くなった。94 年、私が雑誌と招聘・制作業務を全て引き継ぐ株式会社ラティーナを立ち上げることにした。編集部 6 人と一緒での新たな出発だ。その後、ソニーと組んで、私の世界中のプロデューサー仲間を巻き込んで、映像・編集を配信する新しいビジネスを始めたりもした。引き継いだ当初から苦労はあったが、順調だった。

しかし、15 年ほど前からだろうか、色々な面で音楽業界を取り巻く世界の状況が変わってきた。まず、パッケージ・ビジネスが主力だった音楽業界が、もはや CD の販売だけでは生きられないほど不振に。代わって、デジタル音源の配信ビジネスが伸びてきたというものの、利益率ではパッケージに比べると比較にならない。CD の輸入をやってきた弊社は、仕入れたいにも現地で CD そのものが発売されなくなっている。弊社は発刊以来アルゼンチン・タンゴも扱っていて、ブエノスアイレス市からの依頼で毎年タンゴ・ダンスアジア選手権を開催しているが、その関係で、タンゴの衣装・靴などの販売はまだ好調だ。

「ラティーナ」誌 2020 年 5 月号にて休刊



▲e-magazine LATINA ヘッダー

一番深刻なのは、紙媒体の不振。弊社は雑誌編集・映像制作にデジタルを取り入れたのは早かったが、そのデジタルの波に雑誌まで飲まれてしまう羽目に。紙媒体として 68 年の歴史に幕を引き、昨年 8 月から e-magazine LATINA として再出発している。NOTE というプラットフォームを借り、宮沢和史氏にプロデューサー役を引き受けてもらったのマガジンで、やっぱり紙媒体よりは随分多くの読者に読まれるようにはなったが、ビジネス的にはまだまだだ。しかし、このプラットフォームは長文を読んでも楽し、コロナ禍が終われば、イベントと結びつけて新たなビジネスも期待できる。アイデアはたくさんあるのだが、とりあえず、ワクチンが効いてコロナが終息し、海外からアーティストの招聘ができないと何も始まらない。そして、やはり、今後もライブが一番と思っているし、コロナ後のその日を迎えることが今一番の願いである。



▲ラティーナ 2020 年 5 月号

ブラジルの労働法制と日本の労働法制との違い



柏 健吾
(TMI 総合法律事務所日本法弁護士
現在ブラジルで勤務)

ブラジルの労働法制は、ブラジルクスト（ブラジルで事業を行う上での障壁）の一つと長年言われており、日本企業の関心も高い。本稿では、法的な観点から、ブラジル労働法制の特殊性について、日本における労働法制と比較しながらその一部を紹介する。

1. 労働裁判の数

まず、最も大きな違いとしてあげられるのが労働裁判の数である。以下の表は、それぞれの国で提起された新規労働裁判の数である。ブラジルの労働裁判も、労働法が改正された2017年以降、大幅に減少しているが、それでも日本の労働裁判に比べれば桁違いに多い。労働裁判に対応する手間やコストが大きな負担になっていることは容易に想像できる。

	2016年	2017年	2018年	2019年
ブラジル	2,756,251 件	2,648,464 件	1,748,070 件	1,842,619 件
日本	6,805 件	6,897 件	7,130 件	7,280 件

※ブラジル労働最高裁判所 (Tribunal Superior do Trabalho) 及び日本の最高裁判所事務総局行政局の公表数字。なお、日本の数字は労働裁判及び労働審判の合算値である。

2. 契約条件の悪化の禁止

会社の業績悪化などで労働条件の変更（賃金の減額など）が必要な場合、日本であれば、労働者の合意があり、かつ、合意取得の方法に問題がなければ変更も可能である。一方、ブラジルの場合、労働者の合意があっても、当該不利益変更がその後裁判で争われれば、合意は無効と判断される可能性が高い。ブラジルにおいて労働条件を変更するためには労働組合の同意が必要であるが、労働組合の同意を取得するのは現実的には難しい。そのため、ブラジルの場合、業績が悪化した場合でも、解雇以外の方法で人件費を削減することは非常に難しく、柔軟な会社運営ができない。

3. グループ会社による債務負担

ブラジルにおいても、日本においても、法人はそれぞれの債務について各自責任を負うのが原則であり、別の法人が責任を負うことはない。ブラジルにおいては、この例外がいくつかあり、労働法もその一つである（ブラジル労働法2条2項）。同条の詳細な説明は割愛するが、簡単に言えば、グループ会社の各会社は、同グループの別の会社の労働債務について責任を負うという制度である。そのため、ブラジルでは、自社以外の労働者からも労働裁判を提起される可能性があるということを念頭に置く必要がある。

4. 労働組合の位置付け

ブラジルにも日本にも労働組合は存在するが、その位置付けは異なる。日本の場合、伝統的には、労働組合は各企業内に設けられ、

団体交渉は、企業内組合と当該企業間で行われる。そして、企業と企業内組合間で激しい交渉が行われることはそれほど一般的ではない。一方、ブラジルにおいては、会社の事業内容及び所在地により、当該会社の従業員を代表する労働組合が決まり、また、同様に、会社側を代表する使用者団体も決まる。団体交渉は、労働組合と使用者団体又は会社間で行われ、両者の合意（労働協約）は、各企業を拘束することになる。つまり、すべての企業の労働者はいずれかの労働組合に代表されるため、たとえ従業員が数名の企業であっても労働協約の内容に従わなければならない。そして、ブラジルの場合、一般的には、労働組合は会社に対して強気の交渉をしてくる。そのため、事業所の閉鎖など、多くの従業員に影響のあることを行う際には、事前に労働組合への対応を慎重に検討する必要がある。

5. 雇用形態

ブラジルでは、雇用期間の定めのない契約が原則である。また、日本のアルバイトのように、1日のうち数時間、週のうち数時間勤務する形態は一般的ではない。ブラジルにおいても、時間、日、月単位で契約される断続的労働という制度が労働法改正により新たに創設されたが、同制度の合憲性についての議論が続いておりあまり利用されていない。また、日本の派遣のような制度もあるが、例外的な場合（臨時的な従業員の欠員など）にしか利用できない。したがって、日本のように、アルバイトや派遣を利用した労働コストの削減を行うことが難しい。

6. 有給休暇

日本でもブラジルでも有給休暇は労働法で規定された労働者の権利である。もっとも、日本の場合、有給休暇の一部（年に5日）の付与のみが会社の義務で、それ以上の日数についてはたとえ労働者が有給休暇を取得しなくても会社に罰則はない。一方、ブラジルでは、年間30日間の有給休暇があり、全日数付与する義務がある。仮に労働者が有給休暇を取得しない場合、会社は罰則として休暇手当の倍額を支払う必要がある。また、労働者の合意がない限り、有給休暇は30日間連続で付与しなければならない。

7. 解雇の可否

企業による解雇権の有無は、日本の労働法制がブラジルの労働法制より厳しい数少ないものの一つである。ブラジルの場合、理由の如何を問わず、従業員をいつでも解雇することができる（妊娠中の従業員など解雇できない例外事情もある）。一方、日本では、「解雇は、客観的に合理的な理由を欠き、社会通念上相当であると認められない場合は、その権利を濫用したものとして、無効とする」と労働契約法において規定されているとおり、例外的な場合しか解雇できない。

ブラジルにおけるESGと税制の関係



ルイス・ウォルフ
(KPMG リオ事務所
タックスディレクター)



吉田幸司
(KPMG サンパウロ
事務所パートナー)

ここブラジルにおいても環境、社会、ガバナンス (ESG) の観点が投資プロセスや意思決定に組み込まれるようになっている。

世界のトレンドと同様にブラジルの ESG のテーマは、ダイバーシティとインクルージョンへの企業の取り組み、サプライチェーン・マネジメント、気候変動及び安全な水利用への取り組み、安全ポリシー、労働慣行などが含まれる。

さらに、ニューノーマルによって新たな懸念や不安が生じたポスト・パンデミックの世界では、ESG はより重要性を帯びることは確実であろう。

ESG の中枢をなすものとして環境政策及びサステナビリティに対する取り組みが一般的に挙げられるが、ESG は実は企業の税務と強い関わりがあると言え、今回はその関係性について説明したい。

1) 税務上の透明性

税金は、国が公的歳入を確保し、国民や企業へ提供するサービスを負担するための主要な財源である。税金は、経済対策やインフラなど、国に求められる投資を行うために活用される。そのことから、社会に対して公共政策を実施するためには税収をベースとした財源が必要不可欠である。

この考えから、企業が自ら納付した税金総額を開示することは、企業がいかに公共の利益のために協力しているかを明示できるものであり、また、企業が享受する特別な税制恩典に関する情報開示は、透明性の確保のために必要なことと言える。

特に、ブラジルでは投資を呼び込むために相当数の税制恩典が存在している。国から付与された特別な税制恩典は、租税の減額の見返りとして特定の産業または地域の活性化、国全体の雇用確保や投資呼び込みのための施策として今は見なされていると思われるが、特定の企業のみが付与された税制恩典は今後、不均衡かつ不公正な施策として見られ、レピュテーションリスクへとつながる恐れもあることを考えると広く透明性を持って情報開示をしていくことが重要になってくると考えられる。

2) 税制改正、グリーン税、グリーンボンド

ブラジル税制を遵守するためには納税者は非常に高いコストを支払っており、主要因として異なる政府レベル（市・州・連邦政府）を跨いだ複雑な税制度、頻繁な法律改正及び数々の申告書が挙げられる。

長年待ち望まれているブラジル税制改正は、2019年11月号の「税務の勘どころ」で紹介したように主に税制の簡素化を

目的としており、官僚的な要件の廃止及び複雑に入り組んだ連邦税、州税、市税の統合を目指している。納税者が税法を遵守するための負担を軽減し、納付の最適化をもたらすために効率的で時代に合った税制改正が期待されている。

税制改正に関する議論のひとつとして、環境汚染を伴う活動に対する課税案が浮上しており、これは地球温暖化を招く要因を排出する活動に対しピンポイントで課税するものと言われていた。具体的な内容はまだ公表されていないものの、他国のグリーン税を参考にして、ガソリン及びディーゼルなどの化石燃料、火力発電、大気汚染の要因となる工場や自動車などを課税対象することが考えられるが、ブラジルでは特定の業界に対しての増税の場合には議論がまとまらない可能性もある。

一方、ブラジルではグリーンボンドに関する法律が2020年7月5日に施行されており（法令10387号）、これは環境・社会に配慮したインフラプロジェクト（水、電力、都市交通などのインフラ事業の他、5Gに関する通信プロジェクトも含む）に対する投資のための資金調達に資することが期待されている。

上記法令に基づき、ブラジルに居住する個人または法人がグリーンボンドを取得した場合、そこから発生する利息収入に対する源泉徴収税率に関して次の恩典が付与される：

	一般債券	グリーンボンド
個人	15%～22.5%	免税
法人	25%（法人所得税率部分のみ）	15%（一定要件を満たした場合）

パンデミック後の経済回復のためのインフラプロジェクトへの投資の重要性は高い一方でブラジル政府には資金的余裕がないことから、この優遇措置により投資プロジェクトに必要な資金を民間企業がブラジルに呼び込むことが期待される。

他国と同様にパンデミックによって引き起こされた経済危機により税収は大きく減少し、また、政府が実施した経済刺激対策によって歳出が大幅に増加した状況下では、税収は将来持続的かつ公正な経済成長を進めるためにその重要性がさらに増している。

特に企業に対しては、将来何らかの形で「復興税を支払う」ことが期待される。一例として、以前から議論があったが、今回の外出規制により商業がオンラインへ大きくシフトしたことで更に注目を浴びたデジタル活動に対する課税、グリーン税（個人向けとなるが）相続税及び富裕税などが挙げられる。ESGへの関心の高まりで税に対する注目度が更に高まるといえ、企業は近い将来に来るであろう新たな税制を注視する必要があるだろう。

サッカー人生引退後は ブラジル・パラナ州で農場経営



アルシンド・サルトリ
(Alcindo Sartori)
(元プロサッカー選手、元Jリーガー)

生い立ち

私は、1967年パラナ州メジアネイラに生まれた。当時父母が住んでいたフロール・ダ・セーハ・ド・スールには、病院がなかったので、メジアネイラの病院で生まれた訳だ。ブラジルの小さな田舎町で過ごした少年時代は、毎日仲間とサッカーをしたり、鳥を捕ったり、魚を釣ったりと今の子どもたちとは違う素朴な少年時代を過ごした。そんな田舎町での生活を送る中でサッカーボールで遊ぶのが日々最大の楽しみだった。



サッカー人生と訪日

大きくなってからは、プロのサッカー選手になるため大変な努力をした。さらにサッカー選手になってからは、それ以前に比べても、より一層サッカーに没頭した生活を余儀なくされた。所属したチーム、特にフラメンゴでは、いい選手がたくさんいたのでポジション争いが熾烈で、心が休まる暇はなかった。

そんな折、フラメンゴでチームメートだったスター選手のジーコに誘われて日本に行くことにした。日本でスター選手になることを目指していたが、日本行きを後押しした最大の動機は、金銭面のオファーだった。

1993年に訪日、鹿島アントラーズに所属し、プレーした。日本では、ゴールを量産して知名度が上がっていったが、真のスター選手になることができたのは、アデランスのコマーシャルのおかげだった。このCMのおかげで、アルシンドは、日本で最も有名なサッカー選手になったのである。したがって、日本でのサッカー人生において最も印象に残る出来事はと聞かれれば、迷うことなくアデランスのCMと答える。

日本での生活

日本での生活には何の問題もなかった。チームの活動、トレーニング、日常生活でもすっかり適応することができて、食生活でも日本食の愛好者となった。日本食は、なんでも好きになったが、特に気に入った食べ物はラーメンで、日本のラーメンのすばらしさにほれ込んだ。

日本の印象は、経済大国の先進国。日本人は、レジャーよりも仕事にエネルギーを使い、目標に向かって着実に努力を重ねることで社会に貢献しようとする素晴らしい人々に常に尊敬の念を持っている。

在日ブラジル人社会との交流

アデランスのCMは、日本での私の知名度を画期的に押し上げるようになったが、知名度の向上に伴って在日ブラジル人社会との関係でも、ブラジル人が多く住む地域への訪問招待やイベントへの出席依頼等が来るようになった。在日ブラジル人は、私と同じく仕事のために日本に滞在している人達なので仲間意識が芽生え、基本的に話が合った。日本での生活のことやブラジルの近況などについて語り合った。在日ブラジル人社会からは、いつも熱い応援をいただ



いた。私としては、これに応えて、これらの人々が日本で快適に過ごし、当初の目的を達して帰国できることを祈りつつ、できる限りの協力をしたいと考えていた。それで、招待されるイベント等にはできるだけ顔を出したり、頼まれれば一緒に写真を撮ったり、サインやメッセージを贈った。

日伯交流事業への参加

日本とブラジルの関係強化のためのイベントには常に関心があり、積極的に出席したかったが、現役のプロ選手であった当時は、残念ながら選手生活に忙しくてあまりかかわることができなかった。ブラジルに帰国し、サッカー人生を引退後は、時間もできたので、お声がかかれれば積極的に参加することにしている。幸い、日本の人たちが在日ブラジル人社会も私のことを覚えていてくれて、お声をかけてくれるので、特に2011年に発生した東日本大震災の復興イベントへの参加等をきっかけとして、その後関与が増えた。

この度高木在クリチバ総領事から表彰をいただき、大変名誉に感じている。この表彰に込められた想いに応えるためにも今後とも両国の友好増進のために貢献していきたいと思っている。

農業経営に専念する生活

私がブラジル帰国後女子サッカーチームの監督を務めているとしてコメントを求められることがある。実際には、友人に請われて、近隣のフォス・ド・イグアス市の子供チームの立ち上げに協力し、約3か月間指導を行ったことはあるが、現在も引き続き女子チームに関係しているわけではない。

現在私は、農業に専念している。父親が農業に携わっていた時代からすでに農業には強い関心があり、現在は、父の後を継ぎ、大豆及びトウモロコシ栽培を中心に農場経営を行っている。農業は、自分の第二の天職と考えており、農業で生計を立て、家族を養っている。

編集部注：本稿は、アルシンド氏へのインタビューに基づき編集部でとりまとめたものです。



哲人カエターノ・ヴェローゾの魅力は音楽に止まらず

大林ミカ
(自然エネルギー政策研究者)

カエターノ・ヴェローゾの音楽を聴くようになったのは二十数年前だ。「Fina Estampa」くらいから聴き始め「Livro」から夢中になった。ライブ盤DVDの「Fina Estampa ao Vivo」や「Prenda Minha」、「Noites Do Norte Ao Vivo」なども輸入してかけっぱなしにしていた。

小学生の頃からブリティッシュロック、パンク、ニューウェーブ、クラシック、ジャズといろんな分野を聴いてきて、それまでも「ブラジル音楽」も聴いてはいたが、夢中になるには多様な音楽を取り入れたカエターノのスタイルが入りやすかったのだと思う。音楽性が絶えず変化するカエターノを皮切りに、ジョアン・ジルベルトやトム・ジョビンを聴って深く深く聴くようになった。彼らの音楽が、これまで聴いてきた音楽に与えた大きな影響も知った。

音楽から始まり、ブラジルの文化や社会の動きへと興味は広がっていった。ラテンアメリカの文学も好きだったので、詩人や作家が、社会問題について発言し、世論に影響を与え、ときには運動の中心となるラテンアメリカ諸国では、音楽家もその一員であることを改めて理解した。

わたし自身は90年代初頭からエネルギー気候変動問題に携わっている。NGOや海外政府、国際機関で働いてきた。10年前中東で暮らしていたとき、東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所の事

故が起こって帰国を決め、以来日本のシンクタンクで、エネルギー転換にむけた政策提言を行っている。こうしたことから、先住民保護や熱帯雨林の保全、環境問題を唱えるトム・ジョビンやカエターノの思想に共鳴している。

カエターノの公演で実際に体験したが、会場の皆が合唱するラテン音楽ライブ参加スタイルはなかなか面白い。自分も一緒に歌いたい！という気持ちが高まって、なにより詩を深く理解したいと思い、数年前からブラジルポルトガル語を勉強している。三年前からはブラジルポルトガル語教室に通っていて、昨年はコロナで一年休んだが、今年は再開するつもりだ。

それこそコロナ以前は、月に一、二度は海外出張が入っている状態だったが、なぜかブラジルには行っていなかった。第1回の地球環境サミットが開催された地であり、何度か機会はあったが、仕事では行きたくないという気持ちもあったかもしれない。一年半前、ようやく10日間の旅行に出かけることができた。片言のポルトガル語もなんとか通じ、ジョアン・ジルベルトがいなくなった直後のリオ、イグアス、サンパウロに滞在、ブラジルの多様な気候や人々の気さくさ優しさを肌で感じた。海外渡航が自由になったら、また、あのリオのビーチを歩きジョビンに挨拶し、今度はアマゾンも訪問すると決めている。

ジャーナリストの旅路

素晴らしきブラジル音楽

小西大輔
(共同通信外信部デスク、前サンパウロ支局長)

赴任するまで、ブラジルの音楽にはあまり詳しくなかった。子どもの頃に耳にしたのは、ジョアン・ジルベルトとスタン・ゲッツが共演したボサノバのスタンダード「イバネマの娘」(1964年)。あとはセルジオ・メンデスとブラジル'66のヒット曲「マシュ・ケ・ナダ」(66年)くらい。

ちなみにジルベルトが2019年に亡くなったとき、現地の主要紙が見出しに取ったのは出世曲「想いあふれて」(1958年)だった。当時の妻アストラッド・ジルベルトが英語で歌って世界的に売れた「イバネマの娘」は、地元では彼の代表曲とは見なされていないのだ。

「想いあふれて」を聴くと、当時からブラジル人の音楽性が成熟していたことに驚かされる。味はあるがぼそぼそつぶやくようなジルベルトの歌と、その革新的なギター奏法が1950年代末に受け入れられ、ヒットしたのは奇跡に思える。

ブラジル音楽というとボサノバやサンバが有名だが、現地ではMPBやロック、ファンクなどが主流だ。日本では知られていない素晴らしきアーティストは大勢いる。

個人的に一番好きなのは60年代からの長いキャリアを誇り、ブラジルのロックの女王と呼ばれるヒタ・リー。ブ

ラジアン・ロックの父と称されるハウル・セイシャスもお気に入りだ。最近のバンドではジョタ・クエストやロス・エルマノスなどを愛聴している。

現地では今やボサノバのファンがほとんどいないのはご承知の通りだが、ジルベルトが生み出したギター奏法は広く受け継がれており、街角のミュージシャンも弾き語りで用いている。

新型コロナウイルス流行前、サンパウロのパウリスタ通りは日曜と休日に歩行者天国となり、アマチュアのミュージシャンやバンドであふれかえっていた。ブラジルのアマは総じて演奏技術が高い。理由を考えたが、人々が音に対して寛容だからという結論に至った。

マンションなどでは一般に、午後10時以降は騒音を立ててはならないことになっている。逆に言うと、それまではギターをかき鳴らしていても文句は言われない。大きな音で練習できる環境があるから、楽器の腕が上がるというわけだ。

パウリスタ通りのホコ天は中止が続いており、ストリートミュージシャンの活躍の場も失われた。コロナ禍が収束し、早く良質な音楽が街角に戻ってきてほしいと願う。

水声社版「ブラジル現代文学コレクション」第6巻 ベルナルド・カルヴァーリョ『九夜』(宮入亮訳)の魅力

岸和田仁 (『ブラジル特報』編集人)

ブラジル現代文学コレクション

2017年10月に第一巻が刊行された水声社版「ブラジル現代文学コレクション」は、年二冊くらいのペースで確実にコレクションの巻数を膨らませてきたが、最新の第六巻が書店の店頭に置かれたのは昨年12月であった。出版不況といわれる現状でも海外文学の翻訳出版はとりわけ厳しい状況にあるだけに、これは快挙といってよい。

この機会に、武田千香教授(東京外国語大学副学長)の総指揮の下進められてきた、このコレクション全体をざっくりと“復習”したうえで、最新刊の『九夜』の魅力についてメモを重ねてみたい。

まず、これまで刊行された6巻のラインアップを記しておく。

- ①『エルドラードの孤児』 ミウトン・ハトゥン 武田千香訳
- ②『老練な船乗りたち』 ジョルジ・アマード 高橋都彦訳
- ③『家宝』 ズウミラ・ヒペイロ・タヴァーリス 武田千香訳
- ④『最初の物語』 ジョアン・ギマランイス・ホーザ 高橋都彦訳
- ⑤『あけましておめでと〜』 フーベン・フォンセッカ 江口佳子訳
- ⑥『九夜』 ベルナルド・カルヴァーリョ 宮入亮訳

となっているが、それぞれどんな文学作品なのか、まずは第一巻から第三巻までの各巻について短評をメモしておこう。

①『エルドラードの孤児』は、作家ハトゥンの話題作だ。アマゾナス州出身のハトゥンは、サンパウロ大学建築学部を卒業してから文学研究に転進し、スペインやフランスに留学し文学博士号を修得、その後アマゾナス連邦大学やカリフォルニア州立大学などで大学教授(専門はフランス文学)を勤めている。教員作家が描く世界は、出身地マナウスに巨万の富をもたらした20世紀初めのゴムブームを背景に一財産を築いたアルマンドとその遺産を食いつぶす息子アルミントの物語だ。近代とアマゾンの神話世界が交錯するが、ここには日系人も登場し、ポスト構造主義人類学の旗手E・ヴィヴェイロス・デ・カストロ(リオ連邦大学教授)から受けた知的影響も文中から読み取れる。レバノン系(ハトゥンは三世)としての自分のルーツをも巧みに織り込んだ、奥深い文学作品だ。

②『老練な船乗りたち』は、文豪アマードの、社会主義リアリズムで一貫した前期作品群とは対照的に政治色が霧消した後期作品群のなかでも玄人筋の評価が高い小説だ。副題が「バイアの波止場の二つの物語」となっているように、バイ

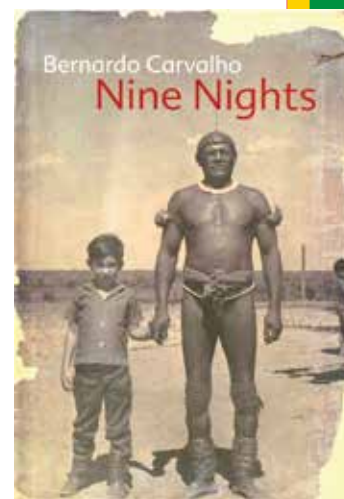
アの近海や遠洋で活躍した船長らの冒険談やら恋愛物語やらが、豊饒な文体で語られる、アマード流魔術的リアリズム文学作品だ。自分自身を“精神的船乗り”とみなしていたアマードらしい、ストーリー展開に読者は唸ることになる。1978年に刊行された旺文社文庫版の改訳版だ。

③『家宝』は、女流詩人・作家ズウミラ・ヒペイロ・タヴァーリスの代表作で、ブラジル版芥川賞のジャプチ賞受賞作品だ。女主人公マリア・ブラウリアが少女時代から老女に変わっていくプロセスを錯綜的に小説化した作品だが、全ての登場人物が複数の顔を持ち、あとがきで訳者が「タヴァーリスの濃密で複合的なテクストをそのまま日本語に置き換えることは不可能」と告白するほどの重厚にして深層的に叙述された小説である。

第六巻『九夜』の読者を惹きつける魅力について

1939年8月、アマゾン奥地の先住インディオ集落でフィールド調査を行っていたアメリカ人類学者グエル・クエインが自死するという事件が起きた。享年27歳というあまりにも若い才人の“謎の死”の真相は未だに解明されていないが、ジャーナリストとしてこの事件を調べた著者(本業はフォーリャ・デ・サンパウロ紙記者)が、フィクション作品の形で、クエインの内面の心の軌跡を想像したのがこの『九夜』だ。コロンビア大学で人類学を学んだクエインの指導教官は、日本論『菊と刀』や主著『文化の型』で有名なルース・ベネディクトで、彼女は、米国における文化人類学を確立したフランツ・ボアズの弟子だから、ボアズの弟子たち(マーガレット・ミード、チャールズ・ワグラー他)も本書のあちこちに登場する。巻末の謝辞に著者が「事実、経験、実在の人物に基づいているが、この本はフィクションである。記憶と想像とを組み合わせたものである。」と記しているように、この作品は、研究対象としての「未開人」と研究者＝主体との関係に苦悩する人類学者を描いた、ともいえる。

2002年に初版が刊行されるやブラジル国内では玄人筋から高く評価され、2007年に英訳版が刊行されると米国や英国でも多くの一般紙の文芸欄で取り上げられ、話題となった。ちなみに英訳者は、前号の本欄で言及したベンジャミン・モーゼルだ。リスベクトール論やスーザン・ソンタグ評伝で注目を集めている若手批評家にして翻訳家だ。彼が翻訳したから、ということで米国での本書の評価があつたともいえるだろう。



ベルナルド・カルヴァーリョ『九夜』英訳版表紙

●2020年度石油生産、前年比5.5%増

2月2日付けアジェンシア・ブラジルによると、2020年度の石油生産は、一日当たり平均294万バレルと前年比5.5%増、また石油製品輸出は一日当たり71.3万バレルで、これは前年比33%増となった。前年比21%増となったプレソルト(岩塩層下)油田の全体に占める生産量比率は66%で、年々プレソルト油田の生産量が拡大している。コロナ禍で石油需要は世界的に減少しているが、ブラジルの石油輸出は増中だ。

●ボルソナロ、ルセーフが軍事政権当時に当局から拷問を受けたことを疑問視

ボルソナロは12月28日、大統領官邸前に集まった支持者に対し、「ルセーフ(元大統領)は、(軍事政権時代に当局から)拷問を受け、顎骨を骨折したと言っている。我々が骨折の痕を見るため、レントゲン写真を持ってくるべきだ。自分(ボルソナロ)は医者ではないが、レントゲン写真を待っている」と述べた。これに対し、カルドージ元大統領(何人であれ、拷問を弄ぶのは受け入れ難い所業であり、(ボルソナロの発言は)常軌を逸している)、ルーラ元大統領(ボルソナロが口を開く度にブラジルは人間性を少しづつ失っている。ボルソナロのような価値のない人間がルセーフのような勇気ある女性を認めることはないであろう)、マイア下院議長(ボルソナロには人間としての器がない。他人の

痛みを茶化すことも拷問である)等が反発。ルセーフは、左翼ゲリラ組織のメンバーであった70年代に治安当局に拘束され、顎骨を折られるまで拷問されたとされている。(12月29日付フォーリャ・デ・サンパウロ)

●OCCRPがボルソナロを「汚職に関するマン・オブ・ザ・イヤー」に選出

独立派のジャーナリスト及びメディアにより構成される「組織犯罪及び汚職報告プロジェクト(OCCRP)」は、2020年度の「組織犯罪及び汚職分野におけるマン・オブ・ザ・イヤー」にボルソナロ大統領を選出した。OCCRPは、「ボルソナロは、腐敗した政治家に囲まれ、ポピュリズム的なアジェンダを推進するために宣伝を駆使し、司法システムに打撃を加え、アマゾンに対して破壊的な戦争を遂行している。また、二人の息子(フラヴィオ及びカルロス)は、不正疑惑(rachadinha)により当局の捜査を受けている」としている。(12月31日付フォーリャ・デ・サンパウロ)

●マクロン仏大統領が伯産大豆の輸入に反対

マクロン仏大統領は1月12日、「伯産大豆に依存し続けることは、アマゾンの森林破壊に賛同することと同じである。我々は、環境上の野望を掲げており、欧州における大豆生産に向けて戦う!」とツイッターに投稿した。

キャンパス・コラム

ブラジル北部のパラー州の文化

小川 涼
(東京農業大学2年)

これから私の行ったことがあり大好きなブラジル北部のパラー州の文化について紹介したい。私がこのパラー州の文化を知るきっかけになったのは、トメアスーという町で行われている、アグロフォレストリーがきっかけである。簡単にこの農法について紹介すると、日系人たちがこの町に移住してきて、コショウの単一栽培を行っていた。しかし、フザリウム菌という病害によりコショウは全滅してしまったのである。そこで、日系人たちは、アサイーやカカオなどを混植したアグロフォレストリー農法を始めたのである。私は、このアグロフォレストリーを学びに、2019年の8月に20日間短期留学を行った。

まずパラー州の文化で紹介したいことは、典型的な料理と食べ物である。パラー州の典型的な料理としてバタバやタカカ、マニソバがある。その中でマニソバについて紹介する。これは、キャッサバとコンソメなどを約一週間煮込む料理である。なぜこんなに煮込むかというと、キャッサバには毒があるからである。これを食べた時、色が黒くてヤバイ味がすると思ったが、とても美味しかった。また、みなさんはアサイーについてどう知っているだろうか?アサイーをスムージーで飲んだり、バナナなどとともにアサ

イーボウルで食べたりすると思う。しかし、パラー州の人たちは、アサイーにファリーニャというキャッサバ粉を入れ食べたり、魚のフライを入れて食べたりする。

次にパラー州の方言について紹介する。パラー州の人々がよく使う言葉は、Égua(エグア)という言葉である。この言葉は、驚いた時、怒った時、悲しい時など、イントネーションによって意味が変わってくる。この言葉は他の州ではメス馬という意味があり悪い言葉だ。そのため、他の州の人は理解できないのである。また、Carapanã(カラパナン)は蚊という意味があり、これも他の州の人は理解できない。この他にももっと表現があるがここまでしておく。

更に紹介したいのは、音楽である。パラー州の音楽にCarimbó(カリンボ)というのがあり、ダンスはインディオ、ポルトガル、アフリカの文化が混ざっている。Carimbóの語源は木が音を奏でるという意味のインディオの言語が由来である。オススメの歌はAi Meninaである。是非聞いてみてほしい。

最後に、みなさんにこのブラジル北部のパラー州に興味を持ってもらったら、私はとても幸せである。

新刊書紹介

◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆

『九夜』（ベルナルドカルヴァーリオ著、宮入亮訳）
ブラジル現代文学コレクション第6弾。20世紀前半のブラジルにおける先住民インディオを巡る国策の変化という時代背景があり、そんな時代に先住民トゥルマイ族やクラホー族のフィールド調査に出向いた若き米国人人類学者が自死してしまう。彼はルース・ベネディクト（日本論『菊と刀』の著者）の弟子であった、という実際に起きた史実を基に著者がフィクション作品に仕上げたもの。米国でも英訳版が文芸の玄人筋に高く評価された作品。
（水声社 2020年12月 258頁 3,000円＋税）

『ハチドリ之歌』（松田潤治郎著）
JICA職員として、サンパウロ、ベレンなどブラジルにのべ17年間駐在した著者が、そのブラジルでの生活体験を生かした話を童話風に綴った一冊。10話収められているが、その第一話

が「ハチドリ之歌」だ。第二話「アマゾン森の友だち」では、ブラジル民話では有名な、一本足の妖精サッシ・ペレレーが現れ、子供たちにサッカーボールを蹴り返す。第三話「月のない夜に」の主人公はインディオ青年。自費出版文化賞特別賞受賞作品だ。
（本作り空 Sola 第2刷2020年12月 134頁 1,200円＋税）

『わたしのもう一つの国』（角野栄子著）
『魔女の宅急便』などで知られる児童文学作家は、若い頃、ブラジルに2年間生活したこともあって同国は「わたしのもう一つの国」だ。自分の娘にリオと名付けたほどブラジル好きの作家が、1980年、娘と共に、20年ぶりに再訪した時の旅行記が『ブラジル、娘とふたり旅』（1981年刊）だが、本書はその増補再版。彼女の処女作『ルイジニョ少年』のモデルとなった少年は、現在72歳の大学教授になっていたとの、あとがきは、感動的だ。
（ポプラ社 2020年10月 164頁 1,650円＋税）

『開高健は何をどう読み血肉としたか』（菊池治男著）
日本語によるアマゾン・パンタナール

紀行の最高峰を極めた、開高健の『オーパ!』（初版1978年）の担当編集者として全行程に同行した著者は、現在、開高健記念会理事。前著『開高健とオーパ!を歩く』では自分で見聞したことに限定したが、今回の本書では、開高の蔵書の山に入り込み、彼の文章を読み返して、作家の内面の旅を推しはかっていく。巻末の付録として「開高健が読んだ本詳細リスト」、「開高健作品の基礎知識」が収録されている。
（河出書房新社 2020年11月 222頁 1,900円＋税）

『サッカー批評原論』（今福龍太著）
「ブラジルのホモ・ルーデンス」というサブタイトルを持つ本書の初版が刊行されたのは2008年。全6章は、序論、起源論、伝播論、儀礼論、本能論、陶醉論、というサッカー批評論集だが、サッカーが有する機知と美学と遊戯性を論じる著者は「ブラジル・サッカーは声のゲームでもある」と書く詩人でもある。今回の再編新版では、「競技サッカーをとりまく環境は、いま大きな変容の渦中にある」がベシミズムに与することは出来ないと記す。
（コトニ社 2020年9月 238頁 1,900円＋税）

!!「ブラジルあれこれ」!!

BRASIL para principiantes(4) - O País de Sessenta Milhões de Médicos -

引き続き、ケルメン（Peter Kellemen）の著書“BRASIL para principiantes”から-O País de Sessenta Milhões de Médicos-と題する章を紹介する。このタイトルは、「ブラジルは6000万人（1950年代当時の人口）全員が医者（の国）」という意味。ケルメンは、ブラジル国民は、みんな病気と薬について一家言を持っているので日々そのつもりでブラジル人と付き合うと良いと教えている。

登場人物の文部省職員マルリー・アフォンソ（Marly Affonso）が、事務所の前で、古くからの友人であるケルメンに対し、「何この脇腹のしつこい痛み。こんなの初めてだわ。なんだと思う？」と聞く。すると、近くでこれを聞いていたと思われる背の高い60歳ぐらいの婦人（後から婦人の名前は、アルマンダさん（D.Armanda）だとわかる）が、「その症状なら肝臓からくる痛みには違いないわ。薬は飲んだ？」と聞いてくる。そこに、別の知り合いのエステベスさん（Sr. Esteves）がやってきて、また、一言「その痛みは肝臓に違いない。メチアルカル（Meticalcal）をすぐに2錠、4時間後にまた2錠飲めば治ります。」と言いながらポケットから薬を出してくれる。するとこれを見ていたアルマンダさんが、「この痛みには、メチアルカルは効かないでしょう。マロヴァン（Marovan）を飲むべきだわ。」と言う。「マロヴァンですか。飲んだことないです。今度試してみましよう。ところで、ビルタル（Bilutal）は飲みましたか？ ヨードと鉄分、それにすべてのビタミンが入っていて肝臓によく効きます。娘が産後飲んでいました。新しい薬です。粒が小さいので水なしで飲めますよ。」

と言ってポケットから薬を出してアルマンダさん、マルリーとケルメンにもくれる。

物語では、この後も、同じ痛みに悩むマルガリーダ・レモスさん（D.Margarida Lemos）やマルリーのいとこの若手医師のフェルナンド・エルマニー（Fernando Hermany）、薬局のお兄さん（rapaz da farmacia）などが登場し、それぞれの薬談議が続く。それがいかにも実際ありそうでおかしい。

確かにブラジルで生活しているとブラジル人の売薬好きに気が付く場面が多い。誰でも頭痛薬や胃薬は好みのものを洋服のポケットやカバンに忍ばせているし、家庭では、テーブルの上などに多くの種類の売薬が置いてあることもある。夫婦の会話などを聞いていても薬は話題として上位を占めていたように思う。また、頭が痛いとか胃が重いなどとかつばやこうものなら、あの薬がいいとかこの薬がいいとか懇切丁寧に教えてくれ、ときには、この物語の場面のようにこれを飲みなさいと、さっと薬が出てくることもあるだろう。物語は、1950年代を描写していると思われるが、今日でもこの本質はあまり変わっていないのかなという印象だ。

この章では、このあとブラジル人の薬事情を踏まえ、ブラジル社会の中で外国人初心者がどううまく立ち振る舞っていったらよいかについてのケルメンのアドバイスがユーモラスに語られるので次回触れてみたい。（次回に続く）（MK）

Churrascaria
Que Bom!
www.que-bom.com

Produzido pela
ATHLETA®

LOJA ASAKUSA
TEL: 03-5826-1538
TOKYO-TO TAITO-KU
NISHI ASAKUSA 2-15-13 Nikkoshi B1F

LOJA SHIMBASHI
TEL: 03-6402-5685
TOKYO-TO MINATO-KU
SHIMBASHI 4-1-1 SHINTORA CORE 2F



日本ブラジル中央協会

イベント・講座のご案内

イベントのご案内

西川珠子 みずほ総研上席主任エコノミスト オンライン講演会
演題：ブラジル経済の現状と展望

日時：2021年3月10日（水）10:30～12:00 <日本時間>
開催方式：zoom ウェビナー

山田 彰 駐ブラジル日本国大使 オンライン講演会
演題：最新のブラジル情勢（仮題）

日時：2021年4月16日（金）（仮）10:30～12:00 <日本時間>
開催方式：zoom ウェビナー

春期ポルトガル語講座のご案内 オンラインでも受講可能！

オンラインでの受講、または、教室での受講、どちらも可能となっております。

- ◆ 全級の初心者コース【火曜 16:30～】
4/6～7/6 [全13回] 受講料：32,500円 講師：岸和田 マリレーネ先生
- ◆ 初心者コース【火曜 19:00～】
4/6～7/6 [全13回] 受講料：32,500円 講師：岸和田 マリレーネ先生
- ◆ 初級Ⅰコース【金曜 19:00～】
4/9～7/2 [全13回] 受講料：32,500円 講師：岸和田 マリレーネ先生
- ◆ 初級Ⅱコース【水曜 19:00～】
4/7～7/7 [全13回] 受講料：32,500円 講師：古庄 マリア先生
- ◆ 中級コース【月曜 19:00～】
4/5～7/5 [全13回] 受講料：32,500円 講師：上運天 ミゲル先生
- ◆ 上級コース【木曜 16:30～】
4/8～7/8 [全13回] 受講料：32,500円 講師：三浦 マリエ先生
- ◆ 上級コース【木曜 19:00～】
4/8～7/8 [全13回] 受講料：32,500円 講師：三浦 マリエ先生
- ◆ 上級会話コース【隔週土曜 11:00～】
4/10～7/3 [全7回] 受講料：17,500円 講師：三浦 マリエ先生

皆様のご入会を心よりお待ちしております

法人・個人・学生

新規会員募集中

会員数 法人会員 112社
(2021年2月現在) 個人会員 約473名

当協会の活動目的「日本・ブラジル両国間の相互理解、友好関係の促進に寄与する」にご賛同・ご支援頂ける方に、会員となることをご検討いただければ幸いです。

会員特典

1. 協会会報「ブラジル特報」の無料配布
隔月発行、年6回配布。
2. 会員価格にて、講演会等のイベント、ポルトガル語講座に、参加できます（会員限定イベントへも参加いただけます）
3. 会員交流懇親会へ参加いただけます
4. ホームページにて、会員限定情報をご覧いただけます

年会費

法人会員 1口 20,000円 / 個人会員 1口 10,000円
(2口以上) (1口以上)

※入会金は不要です

お申し込み



《日本ブラジル中央協会公式HP》
https://www.nipo-brasil.org

日本ブラジル中央協会 検索

「ブラジル特報」は一部有名書店の店頭でも入手できます。



一盃から
ピースフルネスを



茶道裏千家 HP: www.urasenke.or.jp



裏千家ブラジル出張所 HP: www.chadourasenke.org.br



ブラジル赴任の前に ビジネスで使えるポルトガル語を



ブラジルでビジネスや生活をする上で
欠かせないのがポルトガル語です。
BrAsia(ブレイシア)では、
赴任前と赴任後の語学研修を提供します。
「講師任せにはしない」
現地に精通したスタッフが進捗を管理します。

BrAsia (ブレイシア) 運営: 株式会社 漢和塾 〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-12 楠本第17ビル5階
TEL03-6263-0716
お問い合わせは E-mail: brasia@kanwajuku.com HP: <http://brasia-j.com/>



since 1953



60年以上の経験と
実績を誇る
ブラジル食品輸入の
パイオニア



www.imaigroup.com

イマイ ブラジル

Q 検査



セレモア品質
— CEREMORE QUALITY —



セレモアグループは、シニア世代とそこそご家族の
安心で豊かな暮らしをサポートする企業グループです。

24時間
365日受付

ご相談サポートデスク
0120-60-1121

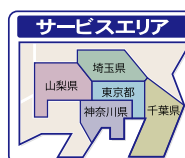
資料請求

詳しい資料の他、セレモアのエンディングノート
「私の記録ノート」をお送りいたします。

◆品質保証の国際規格 ISO9001 認証 (葬祭サービス)
— 人の心 日本文化を守る —



■東京紀尾井町本社 / 東京都千代田区紀尾井町3-12 紀尾井町ビル6F ☎ 03 (3556) 1111 (大代表)
■新宿本社 / 東京都新宿区四谷4-19-7 ☎ 03 (5379) 0111 (大代表)
■立川総本社 ■八王子本社 ■相模原本社 ■埼玉本社 ■所沢本社



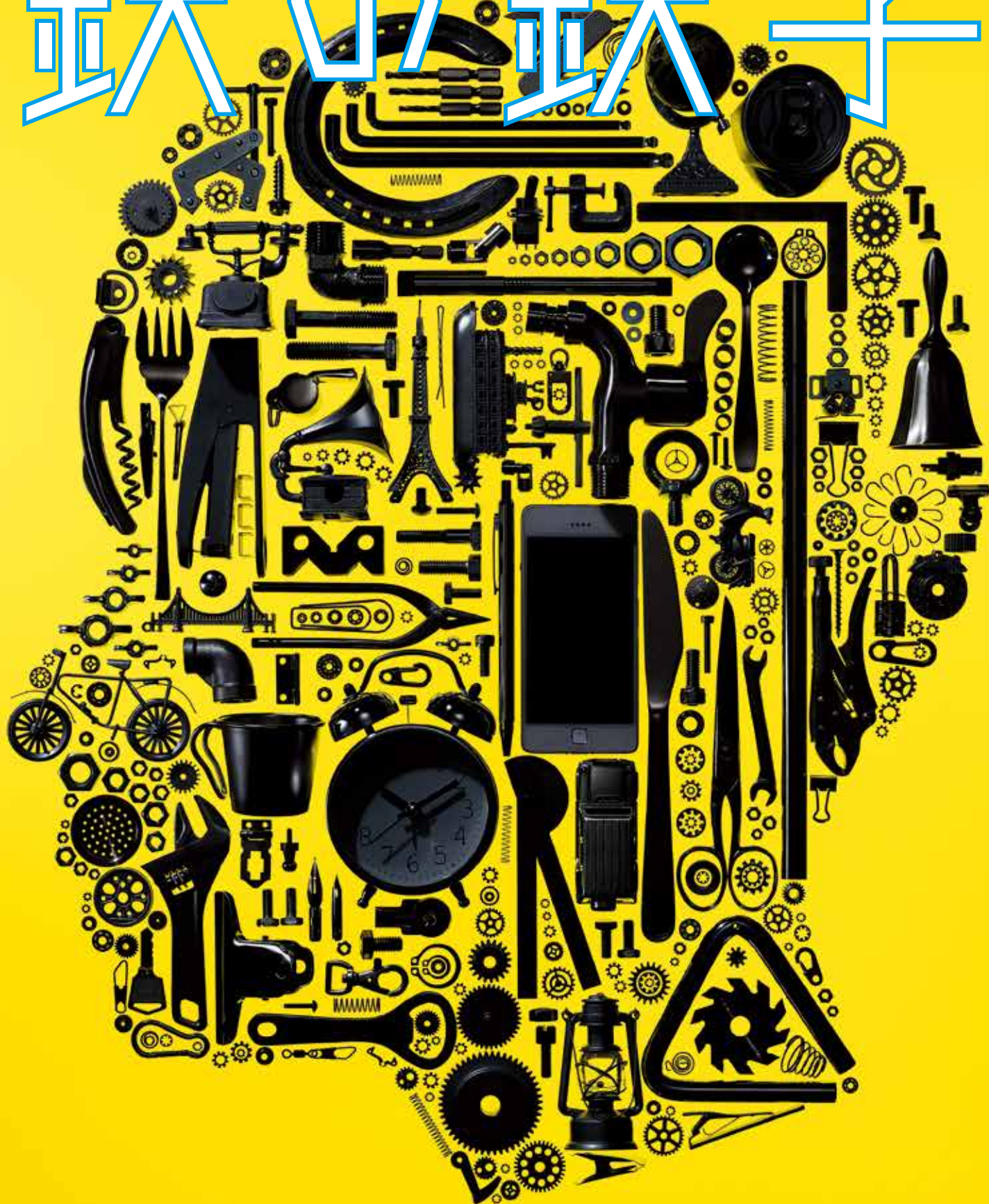
セレモア 検索



担当: 田村 一浩
携帯: 080-2051-6561

どのような事でも
どうぞお気軽に
お申し付けください

鉄の鉄学



世界は鉄でできている。



NIPPON STEEL

あらゆるサイズ、あらゆる場所で活躍する私たち、鉄。実は私たちには独自の“鉄学”があります。それは人の想像力をカタチにすること。長い歴史の中で、人間のアイデアを実現する役割をずっと鉄はしてきたのです。鉄とともに、進化してきた人々の暮らし。さて、次はなにを想像し、一緒になにをつくりましょうか？

